

おおきな木の幹に住む

—部屋ごとに異なる眺望を持つ家—



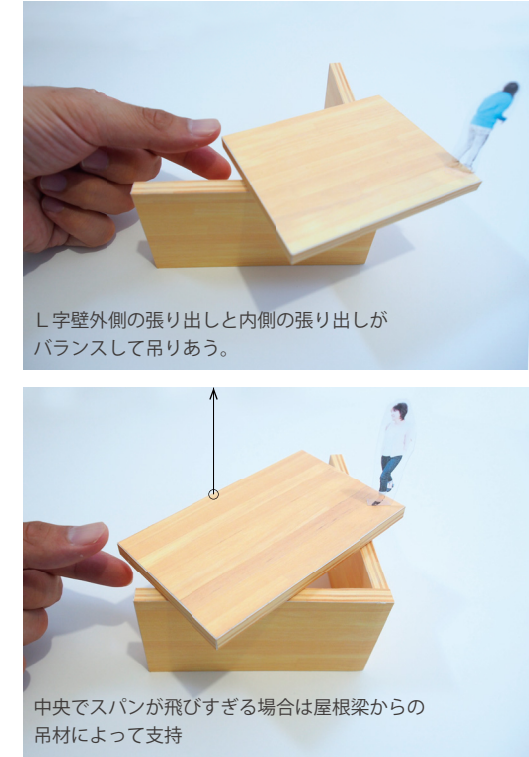
CLT 材の物理的特性を利用して、伝統的な木材のもつやさしさ・力強さを引き出す、大きな木の幹の中に住むような住宅を提案します。CLT で構成される四角い筒の4隅に差し込まれた CLT の床板と大きな開口によって、守られつつも街や空に対して開かれた住宅です。高さと方位が異なる眺望を得られる部屋同士は、筒の内部で距離をとりつつも緩やかにお互いの存在を感じることができる一室空間の中にちりばめられます。同居人、隣人、街、空、自然など、住人をとりまく様々な存在の中で暮らしていた伝統的な日本の住宅の質を、CLT の新しいテクノロジーによって現代にふさわしい住宅として再解釈した提案です。

CLT の物理的特徴を活かすストラクチャー

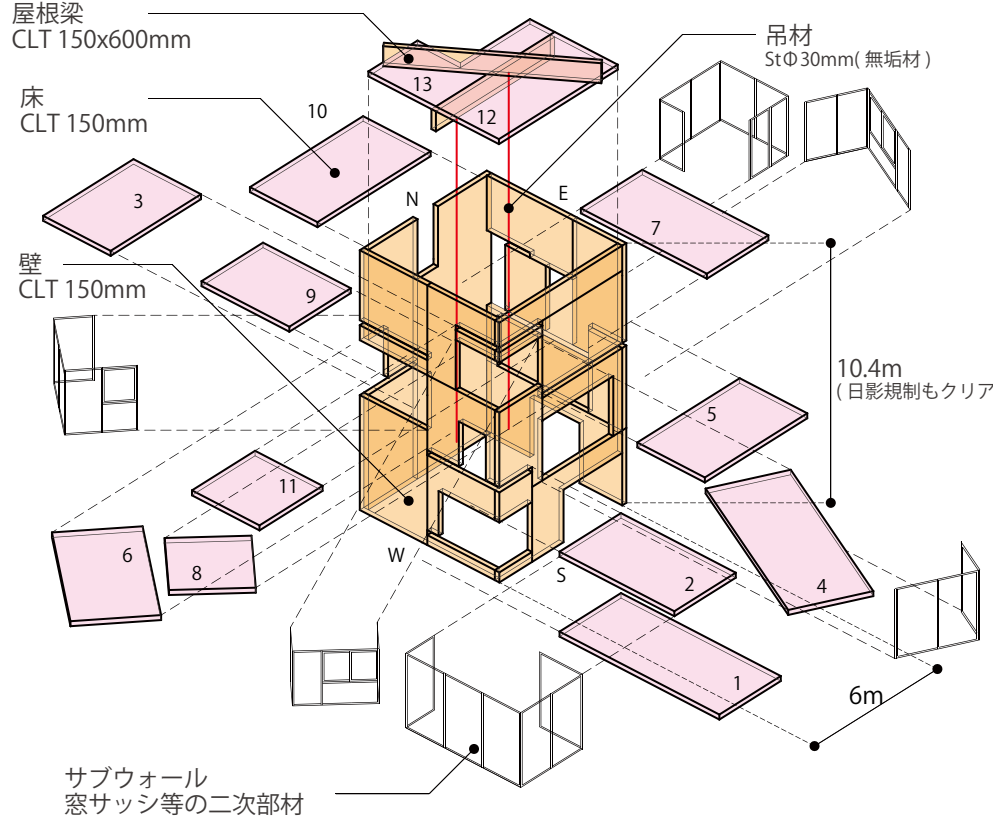
CLT の 3 つの特徴

- ① 自由な跳ね出し
- ② 密実な重さ
- ③ 面内外に堅い板

この 3 つの特徴を最大限活かした構造体とするために壁に床が差し込まれた基本構成とし、CLT ならではの大きな開放的な跳ね出し床と自由な内部空間を実現しています。

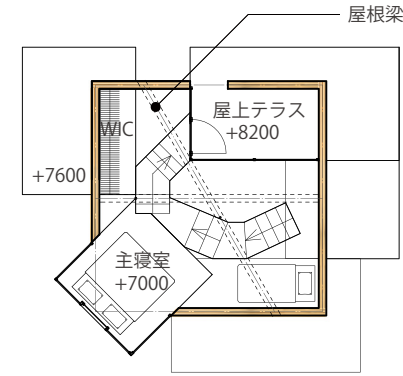
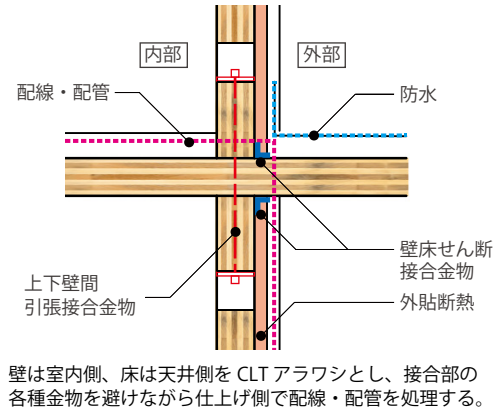
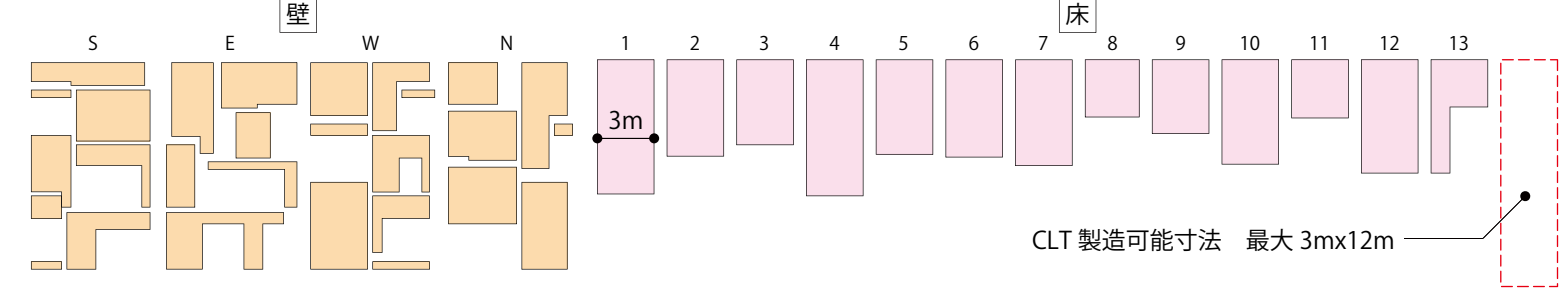


構造・構法アクセソメ

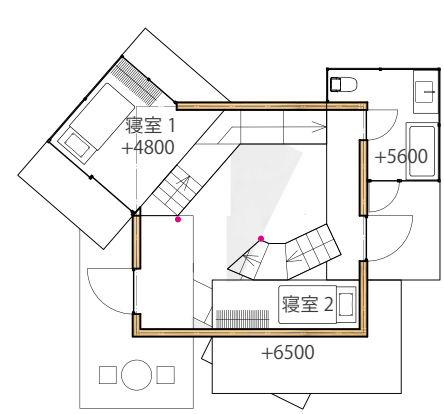


垂直に立てた CLT の筒状の構造体の遇部に、床材の CLT 板を差し込むことで構造として成立します。床の跳ね出し部は面外曲げの強軸方向に板を使い、壁の内側の床と外側の床がヤジロベエのようにバランスを保ち最大で 3m の跳ね出しを実現します。すべてのパネルは CLT の最大製造可能寸法 3m x 12m に納まる寸法とし、RC では難しいが CLT では容易に可能な 150mm 厚 (30mm x 5 層 5 プライ) の薄さの板状の構造体のみをもちいて全体の構造体を構成します。

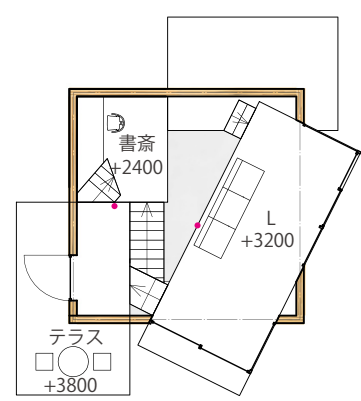
CLT パネル取り展開図



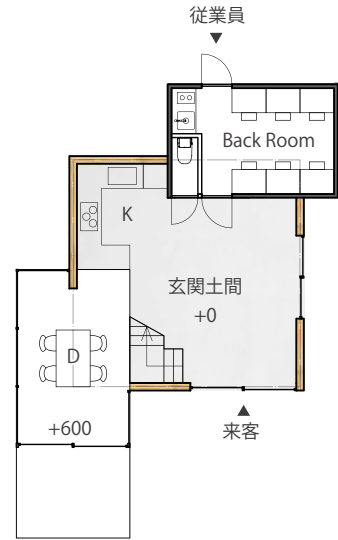
Level3



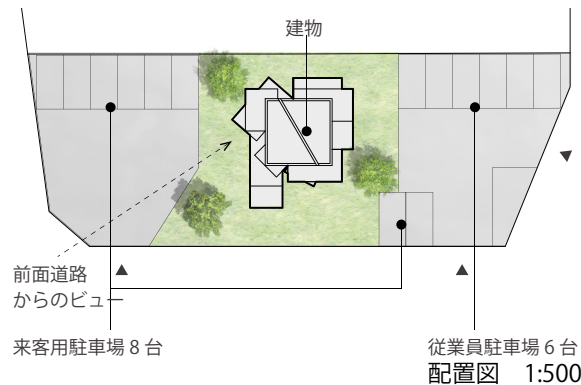
Level2



Level 1



Ground Level
平面図 1:200



配置図 1:500



道路側外観



リビングから書斎・寝室 1 を見る



玄関土間



主寝室から寝室 2、屋上テラスを見る